

JA全農ちば 営農情報集

2022
10

今月の情報

1. 園芸野菜 病害虫防除情報
2. 果樹(ナシ) 病害虫防除情報
3. パートナー企業による農業労働力支援の取り組みについて
4. 安全な農作物生産の取り組みについて
～農薬散布機は毎回洗浄しましょう～

10月の気象について（気象庁 9/29 発表 長期予報（1か月）から）

1. 10月は気温は高く、日照は少なくなる予報となっています。病害虫ともに発生しやすい環境になりえますので、早めの防除を心がけましょう。
2. 台風の発生・接近が多くなる時期です。施設等の保護対策も行いましょう。

【気温】	20	30	50
【降水量】	20	40	40
【日照時間】	40	40	20

凡例 ■: 低い ■: 平年並 ■: 高い



全農では農業施設の台風対策・パイプハウスの建て方動画などを公開しています

アピネスアグリインフォ自然災害対策をご参照ください

HP : <https://www.agri.zennoh.or.jp/N_index.aspx>または「アピネス」で検索🔍

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

10月は気温は高く、日照は少なくなる予報です（9月末時点）。害虫も病害も発生しやすい環境になりますので、圃場を注意深く観察し、早期防除を行いましょう。

また、台風の発生・接近が多くなっています。気象予報に留意して事前対策を心がけましょう。

2. トマト（コナジラミ類・葉かび病・すすかび病）

（1）コナジラミ類

県内では、オンシツコナジラミ、タバココナジラミが発生します。これらは共通して黄化病ウイルス（ToCV）を、タバココナジラミは黄化葉巻病ウイルス（TYLCV）を媒介します。千葉県による病害虫発生予報第6号（令和4年9月20日発表）では、これら両種および黄化葉巻病の今後の予想発生量が「多」となっています。早めの防除を行いましょう。



タバココナジラミ成虫

○トマト コナジラミ類 防除薬剤

薬剤系統	IRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
マコライド系	6	アフーム乳剤	2000	収穫前日まで	5回以内
		アグリメック	500～1000		3回以内
材コナライド系	4A	ベストガード水溶剤	1000～2000		3回以内
スピノシン系	5	ディアナSC	2500		2回以内
ジアミド系	28	ベネビアOD※	2000		3回以内
メダミド系	30	グレースシア乳剤	2000		2回以内
その他①	9B	コルト顆粒水和剤	4000		3回以内
その他②	4C	トランスフォームフロアブル	1000～2000		2回以内

※薬害の可能性があるためアミスター等のQoI剤との混用・隣接散布は避ける

（2）葉かび病・すすかび病

湿度が高い状態が続くと、これらの病害が発生しやすくなります。病原菌の感染から発病までは14日程度かかるため、下葉の発病が見られたら数段上の葉まで感染している恐れがあります。すでに発生が見られる場合は治療剤を加えたローテーション防除を行い、同時に下葉かき等による株元の通風を図りましょう。



すすかび病の病斑

○トマト 葉かび病・すすかび病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数※	使用時期	使用回数	備考
葉かび・すすかび	M7	ベルコートフロアブル	2000	収穫前日まで	3回以内	予防
	7	アフェットフロアブル	2000		3回以内	予防
	3	トリフミン水和剤	3000		5回以内	予防・治療
	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000		3回以内	予防・治療
葉かび		アミスター20フロアブル	2000		4回以内	予防・治療
葉かび・すすかび	7+11	シグナムWDG	2000		2回以内	予防・治療

※登録のうち最大濃度を示す（例：2000～3000倍登録→2000）

3. キャベツ(菌核病)

菌核病は、結球はじめの頃、地面に近い下葉の基部に水浸状病斑を出しながらしおれます。病斑はやがて結球に進展し、全体が柔らかくなります。発病部には写真のような白いかびを生じることがあります。秋雨の時期に発病が増えるため、**今月は重要な防除時期**です。薬剤散布は、葉裏(株元)付近にも薬液がかかるよう丁寧に行いましょう。



菌核病の病斑

○キャベツ 菌核病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数 ※	使用時期	使用回数	備考
菌核病	12	セイビアーフロアブル 20	1000	収穫3日前まで	3回以内	予防
	2	ロブラール水和剤	1000	収穫7日前まで	4回以内	予防・治療
	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000	収穫3日前まで	3回以内	予防・治療

※登録のうち最大濃度を示す(例: 2000~3000 倍登録→2000)

4. ネギ(さび病・べと病・黒斑病)

病害は多湿条件を好むため、降雨前には予防効果、降雨後は治療効果を持つ剤を使用しましょう。また、夜間にもや・霧が発生する時期は病害多発の恐れが高まります。**天候に留意しながら防除**を行いましょう。

(1) さび病

オレンジ色の隆起した斑点が生じます。一度発生してからでは防除が困難な病害のため、予防主体の防除を行い、病斑が見られたら直ちに治療剤の散布に切り替えましょう。



さび病の病斑

(2) べと病

葉身が黄色くぼやけ、表面にはやがて灰暗色のカビが見られます。さらに進展すると、被害部から葉が折れてしまいます。多湿圃場では被害の急拡大に注意が必要です。



べと病の初期病斑

(3) 黒斑病

葉身に輪紋状の黒色病斑が生じ、やがて被害部から葉が折れてしまいます。多湿環境のほか、樹勢が低下すると発生が助長されます。



黒斑病の病斑

○ネギ さび病: ☒ さ・べと病: ☒ べ・黒斑病: ☒ 黒 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数 ※	使用時期	使用回数	備考
☒ べ	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療
	4+M3	リドミルゴールドMZ	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療
☒ さ・ ☒ べ・ ☒ 黒	11	メジャーフロアブル	2000	収穫前日まで	3回以内	予防・治療
		アミスター20フロアブル	2000	収穫3日前まで	4回以内	予防・治療
☒ さ・ ☒ 黒	M7	ベルコート水和剤	2000	収穫30日前まで	3回以内	予防
	3	オンリーワンフロアブル	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療
☒ 黒	2	ロブラール水和剤	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療

※登録のうち最大濃度を示す(例: 1000~1500 倍登録→1000)

5. 露地野菜(ヨトウムシ類)

ヨトウムシやハスモンヨトウは卵を1か所に200～300個の卵塊で産卵します。孵化した幼虫は、成長するにつれて食害量が増えるため、被害が急速に大きくなります。また、露地作物では生長点を食害されると欠株となってしまうため、特に早期防除が重要な害虫です。

○ヨトウムシ・ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ 防除薬剤

薬剤系統 (IRACコード)	薬剤名	登録の有無		
		キャベツ	ダイコン	ネギ
ジアミド系 (28)	プレバソンフロアブル5	○	○	○
	ベネビアOD	○	○	○
マクロライド系 (6)	アフーム乳剤	○		○
	アニキ乳剤	○		○
スピノシン系 (5)	ディアナSC	○	○	○
ピロール系 (13)	コテツフロアブル	○		○
IGR剤 (15)	カスケード乳剤	○		○
	ノーモルト乳剤	○	○	○
メタジアミド系 (30)	グレーシア乳剤	○		○
	ブロフレアSC	○	○	○
その他① (UN)	プレオフロアブル	○	○	○
その他② (22A)	トルネードエースDF	○	○	○
その他③ (22B)	アクセルフロアブル	○	○	○

【注意！】本表は対象病虫害いずれかへの適用の有無を示したものです。他の害虫に適用のあるものもございますので、希釈倍数や使用時期、使用回数等の詳細な登録内容は、必ず使用前に最新の情報を確認してください。



ネギのシロイチモジヨトウ被害と幼虫



キャベツのハスモンヨトウ被害

果樹(ナシ)病害虫防除情報

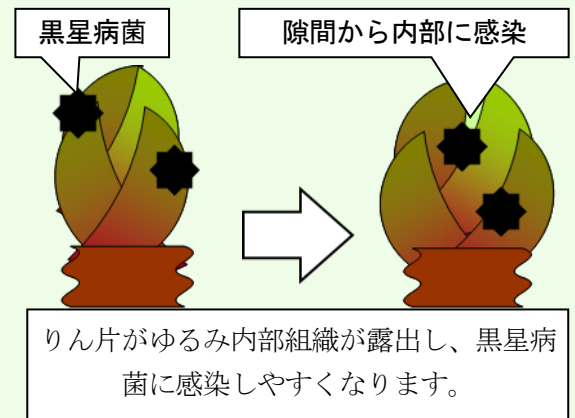
J A全農ちば
営農支援部

1. はじめに

本年は春先から収穫期まで黒星病の発生が続き、平年より多発傾向の年となりました。黒星病は年間を通じた防除が非常に重要な病害です。今秋に残っている黒星病菌は次年度の発生源となりますので、以下の秋防除を徹底しましょう。

2. 秋防除の目的

花芽は9月～12月上旬にかけて、枝の上方から徐々にりん片がゆるみます。降雨があると、葉に残った黒星病菌が雨とともに枝を伝い、ゆるんだ芽に侵入します。ゆるみがピークとなる10月中旬～11月中旬は特に感染しやすい時期となるため、薬剤を散布して感染を防ぎます。



3. 秋防除のポイント

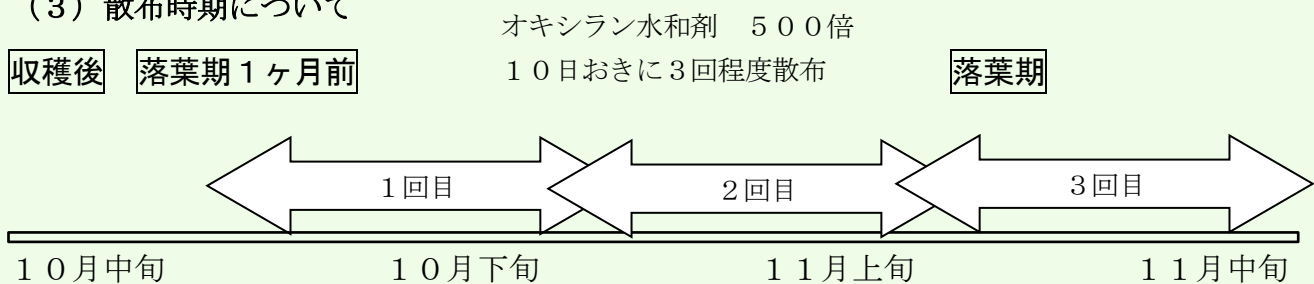
- (1) 落葉期1か月前～落葉期(10月中旬～11月上旬)に10日間隔で2～3回、オキシラン水和剤 500 倍(収穫3日前／9回以内)を散布して、りん片への黒星病菌の感染を防ぎましょう。

※落葉期の目安は全体の8割が落ちるまでです。

- (2) 散布量は350L／10aを目安に、徒長枝に薬液が十分かかるようにしましょう。

※展着剤アビオンE(2000倍)を加用すると耐雨性を高める効果があります。

- (3) 散布時期について



4. 落葉処理 落葉は黒星病の伝染源です！園周辺の落葉も処理しましょう！

落葉を集めて焼却するか土中に埋めます(胞子の飛散を防止)。ただし、炭そ病は土中に埋めても防除にはなりませんので、炭そ病発生園では確実に持ち出す必要があります。園の外周とネット下部にも落葉が溜まっています、熊手等で集めて処分しましょう。



パートナー企業による農業労働力支援

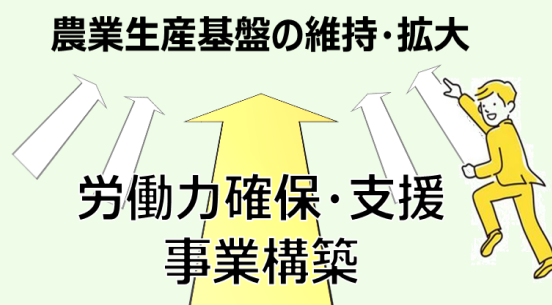
J A全農ちば
営農支援部 営農企画課

1. 労働力支援事業に取り組む目的

全農ちばではパートナー企業*と連携し農業現場における労働力確保の取り組みをすすめています。

こうした取り組みを通じて生産者・JA 事業の維持拡大を支援しながら、幅広い人々が農業に触れる機会を創出し、農業をしてみたいという人材を一人でも多く生み出すことで農業の活性化につなげていきます。

※パートナー企業：生産者、JA に代わり作業員を募集し、農作業を受託する協力企業



2. 事例紹介 JA かとりさつまいも労働力支援事業

作業の一部（蔓切・粗選別）をパートナー企業（古川運送株式会社）へ委託する『農作業請負事業』の取り組みを実践しています。『農作業請負』はさつまいも生産作業を切り分けた一部の作業を委託することです。

令和4年度 JA かとり管内の生産者が当事業を活用し、生産規模の維持・拡大へつなげています。今後は掘り取り作業の検証を行い、さつまいも生産量・出荷量拡大に向けて取り組んでいきます。



さつまいも生産規模の維持拡大

JA かとりさつまいも労働力支援事業概要

3. おわりに

新たに労働力支援を検討する JA・部会等は JA 全農ちば営農企画課までご連絡ください！希望する情報をもとにパートナー企業の対応を検討し、労働力支援事業を協議提案させていただきます！

労働力支援事業は地域全体で取り組むことが大事なポイントです。単なる人手不足を補うものではなく、10年後を見据えた地域の農業生産基盤の維持・拡大に資する取り組みです。

安全な農作物生産の取り組みについて ～農薬散布機は毎回洗浄しましょう～

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

農薬残留基準超過の原因別発生件数は第1位が適用外使用（作物登録なし）、第2位が周辺圃場または同一ハウス内隣接作物からのドリフト、第3位が使用基準違反（使用時期、使用回数、使用方法）、第4位が**農薬散布機・タンク・ホースの洗浄不足・不洗浄**、第5位が過去使用農薬の土壌残留となっています（日本GAP協会調べ：2006年1月～2015年12月、報道資料および公表された違反事例による）。今回は、農薬散布機の洗浄についてご紹介いたします。

2. 農薬散布機洗浄の重要性

一般的に農薬散布機は複数の作物に使用されます。農薬散布後の洗浄が不十分だと、散布機内に微量の農薬が残ってしまい、次回別の作物に農薬を散布した際に予期していない適用外の作物にかかってしまう恐れがあります。農薬はごく微量でも適用外の作物に散布した場合、残留農薬が基準値を超過するリスクが非常に高くなります。**農薬残留基準超過は食品衛生法違反です。最悪の場合、農産物の出荷停止や回収に繋がりますので、農薬散布機の洗浄は使用の都度行いましょう！！**

3. 農薬散布機の洗浄のしかた

<セット動噴の場合>

①タンク内の洗浄



水を溜めてよく揺する！

②ストレーナーの洗浄



目詰まりが無いかよく確認！

③ホース内の洗浄



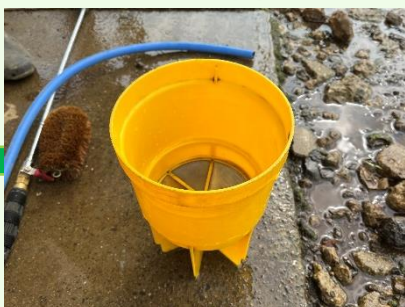
3回以上通水！

<背負い動噴の場合>

①タンク内の洗浄



②フィルターの洗浄



③ホース内・ノズルの洗浄



農薬散布後は必ず洗浄しましょう！！

